

既存の映写機を利用・低コストで導入可能な「フィルム 3D 映画上映システム」で『シュレック フォーエバー』の上映が決定！

平成 22 年 12 月 9 日

富士フイルム株式会社(社長:古森 重隆)が日本国内で普及を進めている「フィルムによる 3D 映画上映システム」*1で、「シュレック フォーエバー」(配給:パラマウント ピクチャーズ ジャパン)が上映されることが決定しました。

「フィルムによる 3D 映画上映システム」は、既存のフィルム映写機をそのまま利用して 3D 映画が上映できる、米国のテクニカラー社が開発した「Technicolor 3D」システムです。

現在、3D 映画の話題作が次々と公開されていますが、デジタル 3D 上映システムを導入したくても初期投資・トータルコストの高さから導入できない劇場も多いという現状があります。その中で、「フィルムによる 3D 映画上映システム」では、既存のフィルム映写機を用いるため、低いコストでデジタル 3D 方式と同様に高画質な 3D 映画の上映が可能となります。また劇場での映写オペレーションも従来と大きく変わることはありません。

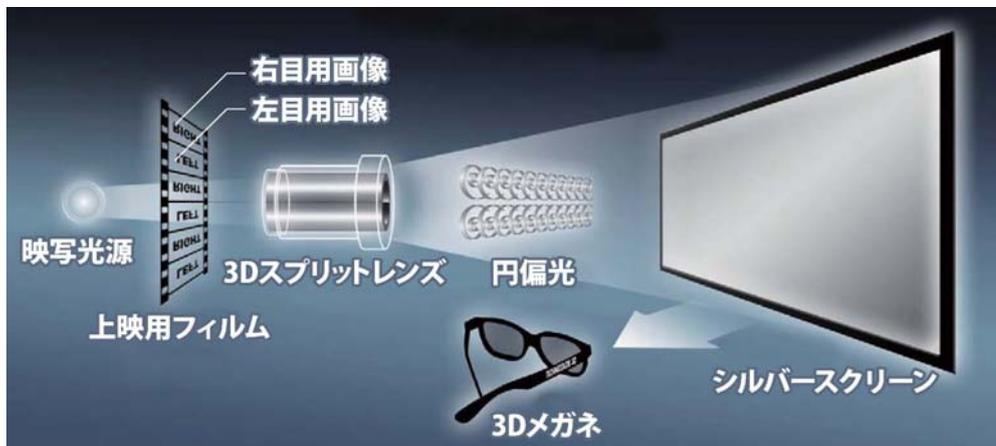
このたび、大人気シリーズ最新作である「シュレック フォーエバー」(12 月 18 日公開)が、この「フィルムによる 3D 映画上映システム」方式の日本における一作品目として、ユナイテッド・シネマ株式会社が運営する大津・金沢・札幌・岸和田の 4 サイトにおいて上映されます。

本作品の上映を皮切りに、劇場向け映写設備の販売・保守サービス会社を通じて、フィルム映写機に装着する専用レンズのレンタル及び設置を行い、日本国内において本システムの普及を積極的に進めていきます。

富士フイルムは、映画の製作から上映にいたる各プロセスで使用される高性能・高品質なフィルムの開発・販売に加え、この 3D 上映システム導入を推進することで、今後も映画産業の発展に貢献していきます。

*1 上映用フィルムの 1 コマを上下に分け、それぞれに左目用・右目用の画像を記録させて、映写機に装着した専用レンズを通して 3D 映像を映写するという仕組み(下図)。本システムの導入に当たり劇場に導入していただくものは、専用レンズ、シルバースクリーン、3D メガネです。また、上映用フィルムは配給会社で作成いただきます。本上映システムは、鑑賞姿勢の自由度が高い円偏光方式を採用しています。

<フィルムによる 3D 映画上映システムの仕組み>



本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

報道関係
お客さま

広報部
イメージング事業部 映画グループ

TEL 03-6271-2000
TEL 03-6271-2124